学校だより

墨田区立立花吾嬬の森小学校　http://www.sumida.ed.jp/tachiazusho/　令和8年10月26日発行　11月号／第250号

芸術の秋、作品からのメッセージ

校長　向井　一郎

芸術の秋、そして、いよいよ展覧会が近づいてきました。子供たちがさまざまな思いを込めて作った作品からぜひ、その思いを受け止めていただく場になればと願っています。作品の仕上げに、今、皆が頑張っています。楽しみにしていてください。

先日、三年生の社会科見学区内めぐりがありました。その中で、「すみだ北斎美術館」を訪ね、子供たちが当時の作品を目の前で鑑賞し、興味をもってくれている姿を見てとても嬉しくなりました。なのはな学級のある子は、「神奈川沖浪裏」の大きな波の構図を見て「ここにも富士山のような形が見える」と大発見をしていました。素晴らしい感性だと思いました。また、多くの子供たちが A4 大の浮世絵作品よりも、北斎の肉筆画、その多くが長い掛け軸になっているのですが、それらの大きな作品にひきつけられていました。中でも全体を朱色で描いた「朱描鐘馗図」（しゅがきしょうきず：北斎 80 歳ころの作品　1846 年頃）というひげを生やしこちらをにらみつけている魔よけの神様を描いた作品に見入っている子供たちが多かったです。子供たちにとっては構図も整い、描いた線が版画として細かく描かれている作品よりも、筆を使って一気に大きく描いている作品から大きなパワーを受けているのかと意外な思いがしました。館内で本校児童を見つけては「浮世絵はね、こうやって色別に何枚も木の板を彫って、それを重ねて刷っていったんだよ。すごいよね。」と説明したのですが、あまり驚きの反応はありませんでした。それよりも一本の筆で目の前に見たもの、想像したものを描き切った北斎の作品の方にひかれたのかもしれません。いずれにしても、こうして自分の住んでいる町の中で、世界にとっての宝物に触れることができる子供たちは幸せです。

実は、私自身が、昔から浮世絵や印象派の画家の作品が大好きでした。幼稚園年長時の誕生日プレゼントにねだったものは「ロートレックの版画パネル」と「ロダンの考える人の小さな石膏模型」でした。また、ゴッホのあのうねるような油絵に描かれた場所はどこにあるのだろう、いつか訪ねてみたいと思っていました。そして、今から 34 年前、運良くベルギーブリュッセルにある日本人学校に 3 年間派遣されることになりました。もちろん、その 3 年間、現地で暮らす日本人の子供たちのために全力を尽くしたつもりですが、同時に夢だったゴッホ（フィンセント・ファン・ゴッホ　1853-1890）の足跡を、機会あるごとにたずねることができたのです。1853 年にオランダで生まれたゴッホ（まさに日本に黒船が来航した年です。）は宣教師としてベルギー南部の炭鉱に住み布教活動をします。同時に学んでいた絵の力を高めるために、炭鉱で働く人々のことを一生懸命にスケッチします。当時の作品はどちらかというと暗い色合いで人の表情を細かくとらえた作品が多いのです。確かにこの地域はあちこちに石炭のぼた山が残るような、灰色の印象の強い地域でした。やがて、パリに移り住みます。ゴッホの創作活動を支えていたのが画商として財を成していた弟のテオさんです。林忠正さん（1853-1906 何と富山県高岡の出身！）という日本の美術品を扱う画商の力により、当時パリでは日本の浮世絵ブームが起こっていました。そんなブームとテオさんによる資金のおかげで、創作に悩んでいたゴッホの前に、日本の葛飾北斎（1760-1849）、歌川広重（1797-1858）などの浮世絵の実物が並びます。ゴッホは夢中になって、それらに作品を集め、模写し、構図を学んだと言われています。さらに、そこに描かれた世界（光や空気感）にあこがれ、南フランスにそれを求めて移り住んでいくことになるのです。ゴッホは、アルルには日本のような景色があると信じていたのでしょう。「跳ね橋」や今年日本でも公開された「夜のカフェテラス」（今も同じ店が残っていました。）などを描きますが、何かが違う、そこは日本ではないと悩んだのでしょうか、心を病んで入院してしまいます。アルルから東へ 25 ㎞程離れた町「サン・レミ」の病院で、いよいよあのうねるような糸杉や渦を巻いた太陽や月、星空などを描くようになります。うまく描けないと、絵の具の上に、また絵の具を重ね、絵の具が画面に盛り上がるほどの熱量の作品群です。生きた時代は少しずつずれていますが、北斎、広重、そしてゴッホと続いて行く創作活動の源が、江戸の町、そして、当時の墨田区にあると言ったら大げさでしょうか。広重の作品を模写したゴッホの作品があります。ゴッホがアルルに移る前のパリ時代（1887 年頃）に描いた「亀戸梅屋敷の梅の絵」です。（明治 44 年まで梅屋敷は福神橋バス停のすぐ近くにありました。）何十枚も集めたゴッホの浮世絵コレクションの中には、必ず北斎の作品が入っていたはずです。神奈川沖浪裏の構図や波の勢いを見て、「いつかはこんな作品を描きたい」と思っていたのかもしれません。

北斎、広重、ゴッホ、そして現代の立花吾嬬の森小学校の子供たち。それぞれの作品には、それぞれの思いや願い、そして表現したい世界があります。作品を鑑賞するとは、その思いに耳を傾けることなのかもしれません。展覧会では、ぜひ子供たち一人一人の作品から発せられるメッセージを受け取っていただければと思います。

１１月　月間予定表

今月の生活目標　　進んで仕事をしよう

	給食	朝活動	B時程	行　　事	各学年時数					
					1	2	3	4	5	6
1（日）				東京都教育の日						
2（月）	○	朝会	B	全校朝会（放送）　委員会活動⑥（アルバム写真撮影予備日） チャレンジ教室（3）　放課後補習教室（5・6）	5	5	5	5	6	6
3（火）				文化の日						
4（水）	○	読書		区小研　図書ボランティア読み聞かせ	4	4	4	4	4	4
5（木）	○	**学習**	B	生活科見学（1・2）	5	5	6	6	6	6
6（金）	○	**集会**	B	音楽朝会　i-check実施日（全）　チャレンジ教室（1・2）	4	5	5	6	6	6
7（土）				東京都教育の日						
8（日）										
9（月）	○	朝会	B	持久走（中）　放課後補習教室（5・6）	5	5	5	5	5	5
10（火）	○	学習		安全指導　社会科見学（4）　鹿沼宿泊前検診（なのはな5・6） 持久走（低）　放課後補習教室（4）	5	5	6	6	6	6
11（水）	○	読書	B	鹿沼宿泊（なのはな5・6）始	5	5	5	5	5	5
12（木）	○	学習	B	持久走（高）	5	5	6	6	6	6
13（金）	○	学習		鹿沼宿泊（なのはな5・6）終	4	5	5	6	6	6
14（土）				立吾フェス						
15（日）										
16（月）	○	朝会	B	クラブ活動⑥　クラブ見学（3）　持久走（中） チャレンジ教室（3）　放課後補習教室（5・6）	5	5	**6**	6	6	6
17（火）	○	学習		社会科見学（5）　がん教育（6）　持久走（低） 放課後補習教室（4）	5	5	6	6	6	6
18（水）	○	読書	B	避難訓練	5	5	5	5	5	5
19（木）	○	集会	B	お楽しみ集会　文化庁共生プロジェクト（なのはな）3・4校時 展覧会準備（6）　持久走（高）	5	5	5	5	5	6
20（金）	○	学習	B	チャレンジ教室（1・2）	4	5	5	6	6	6
21（土）										
22（日）										
23（月）				勤労感謝の日						
24（火）	○	学習	B	放課後補習教室（4）	5	5	6	6	6	6
25（水）	○	読書		校内研究（6）	4	4	4	4	4	4
26（木）	○	学習	B	文化庁共生プロジェクト（なのはな）3・4校時	5	5	6	6	6	6
27（金）	○	学習	B	展覧会児童鑑賞日	4	5	5	6	6	6
28（土）	○		B	**展覧会保護者鑑賞日**	5	5	5	5	5	5
29（日）										
30（月）				展覧会振替休日（11/28）						

展覧会に向けて

特活主任　　秋山　麻由子

今年の展覧会のテーマは「ひらめき　あふれる　ミュージアム」です。子供たちは、感じたことや想像したことをもとに、一人一人の思いや発想を生かして作品づくりに取り組んでいます。同じ題材でも、色や形、表し方にはそれぞれの個性や工夫が表れています。作品を鑑賞しながら、子供たちがどのようなことを考え、どんな思いを込めて表現したのかにも目を向けていただければと思います。会場に広がる子供たちの豊かなひらめきと表現をぜひお楽しみください。

校庭改修工事について

12 月～１月にかけて、校庭の全面改修を行います。この期間の活動は、体育館または屋上で行います。